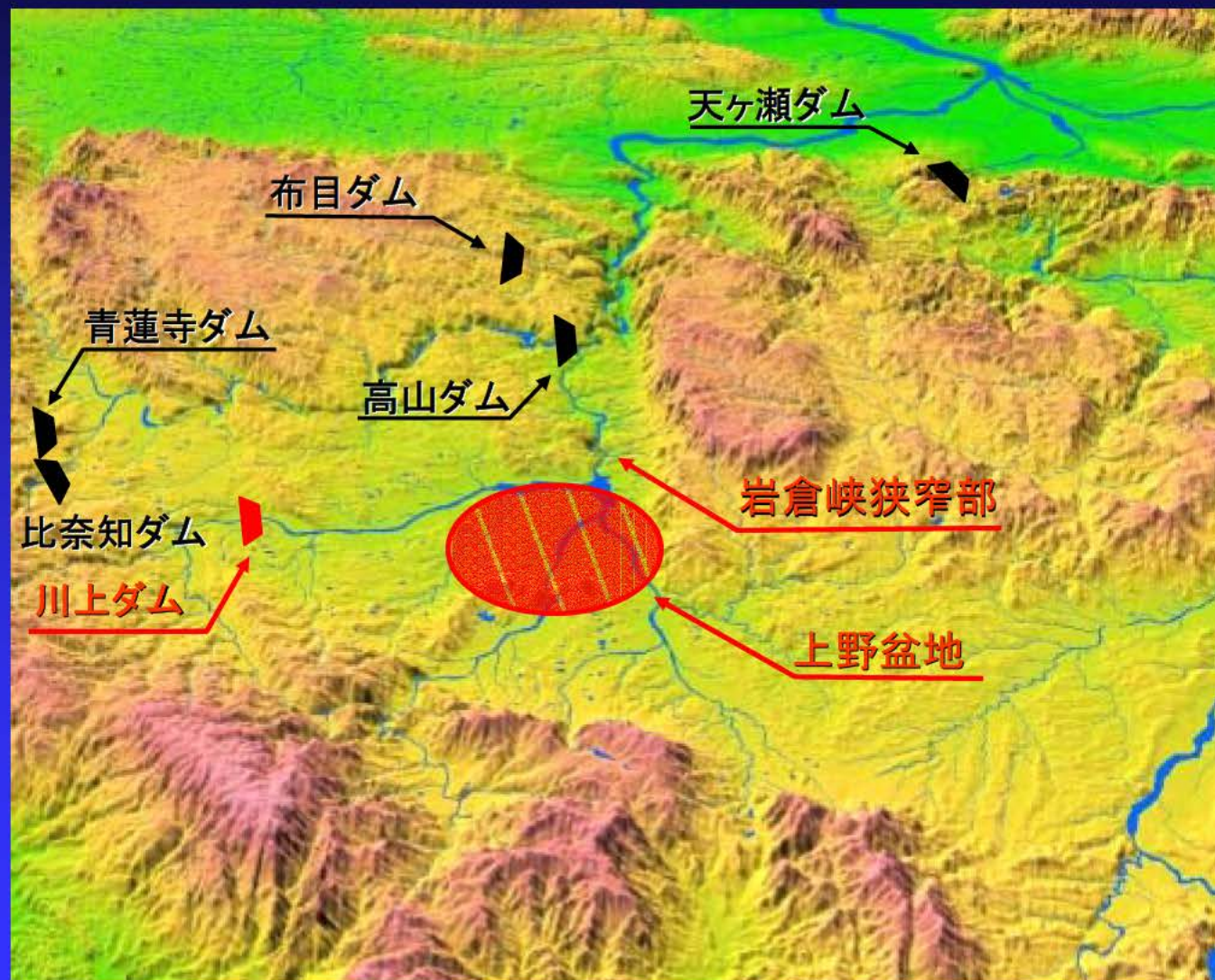


ダム計画の見直しの考え方

淀川流域図



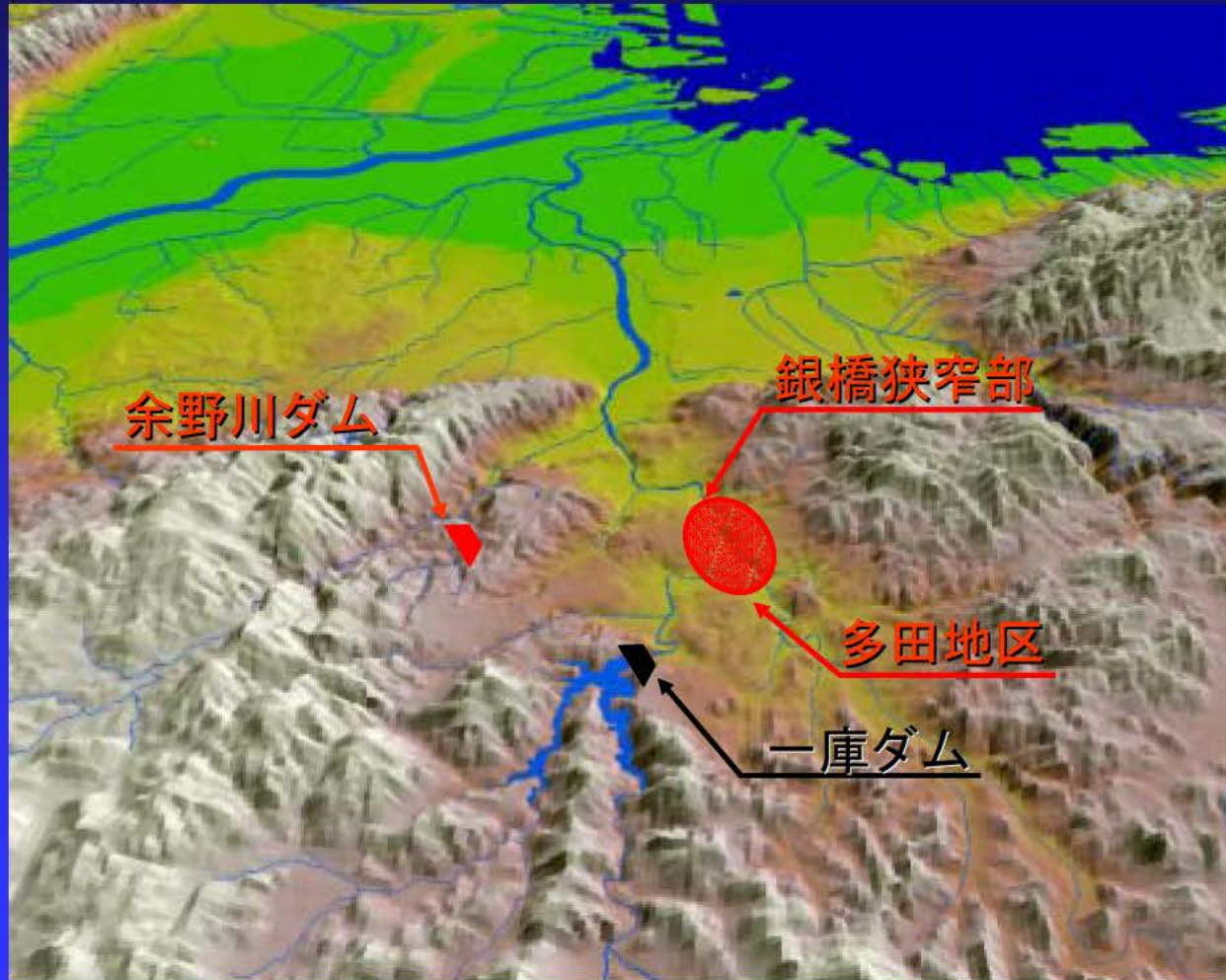
岩倉峡狭窄部



保津峡狭窄部

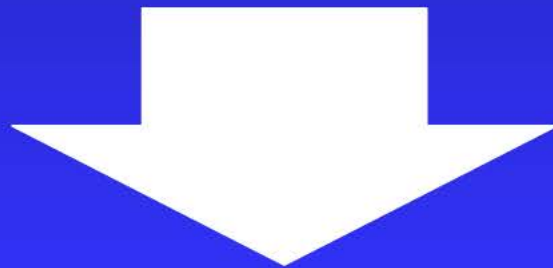


銀橋狭窄部



○治水の考え方

- ◆破堤による被害の回避・軽減のため堤防を強化する
- ◆下流への流量増によって、破堤の危険度を増大させるため、狭窄部の開削は行わない



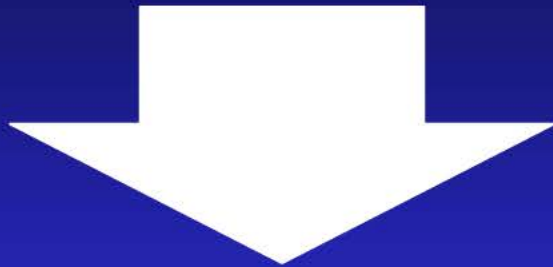
狭窄部上流の浸水被害を解消する

■狭窄部上流の浸水被害対策

- ・上野盆地 : 川上ダムの直接効果を検討
- ・亀岡盆地・多田地区
: 現在建設中のダムの活用を含めて、あらゆる方法を考える

■琵琶湖の浸水被害対策

- ・洪水時には瀬田川洗堰を全閉する



- ・浸水被害の軽減を図る



- ・琵琶湖からの放流能力の増大を図る

■各ダムの治水効果

1. 狭窄部上流の被害の軽減効果を確認
2. 地先・下流の治水に対する効果を確認

○環境の考え方

◆環境流量、琵琶湖の環境についてダム計画の内容の見直し

○利水の考え方

■水需要を精査確認する

1. 用途間転用を図る
2. これを前提に新規水資源開発を確定する

ダム計画の方針

- 治水、利水面からダムの効用は大きい。しかし、水没を伴い、河川環境を大きく改変することも事実である。
- 他に経済的にも実行可能で有効な方法がない場合において、ダム建設に伴う社会環境への影響について、その軽減策も含め、他の河川事業にもまして、より慎重に検討した上で、妥当と判断される場合に実施する。
- 淀川水系の特性に鑑み、特に以下の事項について留意する。
 - ・琵琶湖における急速な水位低下が生態系に及ぼす影響
 - ・狭窄部等の開削は当面実施しないことによる狭窄部上流部の当面の浸水被害軽減
 - ・近年頻発している渇水に対する安全度の確保
 - ・既存ダム群の再編成

上記の方針をふまえて

各ダムについて見直し案を説明する